

公 開
資 料 3

第 3 6 4 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和6年3月25日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 委員会関係						
提案1	(機能別委員会) (1)国際委員会運営要綱の一部改正(新規設置1件) (2)国際委員会分科会委員の決定(新規1件)	(1)国際委員会委員長 (2)会長	5	国際委員会に分科会を設置することに伴い、国際委員会運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	日比谷副 会長	(1) 会則 第27条 1項 (2) 内規 第18条
提案2	(分野別委員会合同分科会) 第二部合同分科会の設置	第二部長	8	第二部生命科学系学術雑誌問題検討分科会を設置する必要があるため。	第二部長	会則27条1項、第79回幹事会決定「部が直接統括する分野別委員会合同分科会」について
提案3	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正(新規設置7件、構成の変更3件) (2)分科会委員の決定(新規7件、追加20件、取り消し1件) (3)小委員会委員の決定(新規1件)	(1)法学委員会委員長、経済学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、薬学委員会委員長、総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長、電気電子工学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長、材料工学委員会委員長 (2)第一部長、第二部長、第三部長 (3)第三部長	10	分科会及び小委員会の設置及び分科会の構成変更に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分野別委員会における分科会委員及び小委員会委員を決定する必要があるため。	第一部長、第二部長、第三部長	会則27条1項、内規18条

2. 協力学術研究団体関係

提案4	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	35	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①一般社団法人日本超音波骨軟組織学会 ②一般社団法人日本循環器看護学会 ③日本赤十字看護学会 ④一般社団法人日本ヒューマンヘルスケア学会 ⑤母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)学会 ⑥一般社団法人日本呼吸理学療法学会 ⑦国際取引法学会 ⑧日本聴覚言語障害学会 ⑨北海道民族学会 ⑩洋学史学会 ※令和6年3月25日現在2,142団体(上記申請団体を含む)	三枝副会長	会則36条
-----	-----------------------	-----------	----	--	-------	-------

3. 国際関係

提案5	令和6年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定すること	会長	37	令和6年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定するため。	日比谷副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規19条2項、21条
-----	-----------------------------------	----	----	------------------------------------	--------	----------------------------

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等【令和6年度第2四半期】

提案6	学術フォーラム「未来の学術振興構想ー実現に向けてー」の開催について	科学者委員会委員長	40	主催：日本学術会議 日時：令和6年9月もしくは10月の午後(調整中) 場所：日本学術会議講堂(ハイブリッド開催) ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第2
-----	-----------------------------------	-----------	----	---	---	--------

5. シンポジウム等

提案7	公開シンポジウム「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの!？」の開催について	食料科学委員会委員長	44	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本繁殖生物学会 日時：令和6年5月11日(土)13:00~15:20 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案8	日本学術会議中部地区会議学術講演会「未病からWell-beingを考える」の開催について	科学者委員会委員長	46	主催：日本学術会議中部地区会議 共催：富山大学 日時：令和6年6月14日(金)13:00~16:30(予定) 場所：富山大学五福キャンパス(富山県富山市)(ハイブリッド開催) ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム「裁判記録の現状と課題ー保存と公開体制の確立をー(第29回史料保存利用問題シンポジウム)」の開催について	史学委員会委員長	48	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会、日本歴史学協会 日時：令和6年6月22日(土)13:30~17:30 場所：一橋大学(東京都国立市)(ハイブリッド開催) ※第一部承認	—	内規別表第2

6. 後援

提案10	国内会議の後援をすること	会長	51	<p>以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第15回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会シンポジウムーアジアにおけるプライマリ・ケア領域ナース・プラクティショナー最前線ー ・第13回JACI/GSCシンポジウム 	-	後援名義使用承認基準 3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	---	------------------

7. その他

	件名	資料(頁)
参考	<p>今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、第191回総会期間中に開催予定。</p>	52

国際委員会運営要綱（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(組織) 第 1 (略)				(組織) 第 1 (同左)			
(分科会等) 第 2 (略)				(分科会等) 第 2 (同左)			
分科会等	調査審議事項	構成	備考	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)				(同左)			
<u>持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 分科会</u>	<u>持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること</u>	<u>副 会 長 (日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当) 及び 会 員 又 は 連 携 会 員</u>	設置期間：令和 6 年 3 月 25 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日	(新規設置)			
(略)				(同左)			
(庶務) 第 3 (略)				(庶務) 第 3 (同左)			
(雑則) 第 4 (略)				(雑則) 第 4 (同左)			

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
 この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 分科会
の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	国際委員会
2	委員の構成	副会長(日本学術会議会則第5条第3号担当)及び会員又は連携会員
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年1回開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること
5	設置期間	令和6年3月25日～令和7年3月31日
6	備考	※新規設置(平成15年から「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を毎年開催しており、そのための分科会を都度設置している。)

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（新規1件）

（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 分科会）

氏名	所属・職名	備考
岩崎 渉	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	連携会員
大西 楠テア	専修大学法学部教授	連携会員
小川 剛伸	京都大学大学院農学研究科助教	連携会員
小野 悠	豊橋技術科学大学学長補佐／大学院工学研究科准教授	連携会員
加納 圭	滋賀大学教育学系教授	連携会員
岸村 顕広	九州大学大学院工学研究院応用化学部門／分子システム科学センター准教授／総長補佐	連携会員
標葉 隆馬	大阪大学社会技術共創研究センター准教授	連携会員
藤岡 沙都子	慶應義塾大学理工学部応用化学科准教授	連携会員
南澤 孝太	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授	連携会員
安田 仁奈	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員

【設置予定：第364回幹事会（令和6年3月25日）、決定後の委員数：11名】

部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置について

合同分科会の名称：第二部生命科学系学術雑誌問題検討分科会

1	担当部及び関係委員会名	第二部
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>我が国には国際的にインパクトの高い生命科学系分野の学術雑誌が存在せず、研究成果の発表は外国の商業出版社に大きく依存している。この状況は、我が国の研究成果の国際的な認知度と競争力を著しく損なっている。さらに、商業出版社に支払う高額な出版費用は、公的資金で支援された研究成果の知的財産を遍く発信し平等に共有すべきという科学活動の根本的原則に反している。このような状況を改善するためには、我が国の生命科学研究の成果を世界に向けて効果的に発信できるプラットフォームなどのシステムを確立することが喫緊の課題である。</p> <p>このため、本分科会では、生命科学系分野の学術誌の強化方法と、我が国の研究成果を如何に世界に発信・展開していくかについて、第二部を中心に、第一部、第三部の会員を交えて、全体で議論する。</p>
4	審議事項	<p>我が国における生命科学分野の学術論文の出版強化の新しい包括的取組に関わる審議に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命科学系分野学術誌特有の問題点の整理 2. 1の改善に向けた方策の検討 3. 成果発信のための統一したプラットフォームの設置等の検討
5	設置期間	令和6年3月25日～令和8年9月30日
6	備考	

【分野別委員会合同分科会】

○分科会委員の決定（新規1件）

（第二部生命科学系学術雑誌問題検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
小長谷 有紀	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館名誉教授	第一部会員
岩崎 博史	東京工業大学科学技術創成研究院細胞制御工学研究センター教授	第二部会員
神田 玲子	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門放射線医学研究所所長	第二部会員
小林 武彦	東京大学定量生命科学研究所教授	第二部会員
佐々木 裕之	九州大学高等研究院特別主幹教授、九州大学名誉教授	第二部会員
杉本 慶子	国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究センター細胞機能研究チームチームリーダー	第二部会員
有田 正規	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授	連携会員
加藤 忠史	順天堂大学医学部精神医学講座主任教授	連携会員
川幡 穂高	早稲田大学理工学術院環境資源工学科客員教授	連携会員
清川 悦子	金沢医科大学医学部病理学Ⅰ教授	連携会員
辻本 壽	鳥取大学乾燥地研究センター教授	連携会員
中村 春木	大阪大学名誉教授	連携会員
林 和弘	文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長	連携会員
坂内 博子	早稲田大学理工学術院教授	連携会員
東山 哲也	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
平田 たつみ	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授	連携会員
松田 道行	京都大学大学院生命科学研究科教授	連携会員
水島 昇	東京大学大学院医学系研究科分子細胞生物学専攻分子生物学分野教授	連携会員

【設置予定：第364回幹事会（令和6年3月25日）、決定後の委員数：18名】

分野別委員会運営要綱（平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
法学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	法学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	法学委員会生殖補助医療と法分科会	生殖補助医療の実践と学術の健全な発展と有効な活用を可能とする法と政策のあり方に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	令和6年3月25日～令和8年9月30日		(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
経済学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	経済学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	経済学委員会数量的経済・政策分析分科会	1. 研究者等を対象としたチュートリアルセッション等の開催 2. 政府統計等の整備に関わる提言に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	令和5年12月22日～令和8年9月30日		経済学委員会数量的経済・政策分析分科会	1. 研究者等を対象としたチュートリアルセッション等の開催 2. 政府統計等の整備に関わる提言に係る審議に関すること	18名以内の会員又は連携会員	令和5年12月22日～令和8年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会	薬学委員会に記載	薬学委員会に記載	薬学委員会に記載		(新規設置)			
基礎医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	基礎医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会	薬学委員会に記載	薬学委員会に記載	薬学委員会に記載		(新規設置)			

臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会	高齢者の自立・自律をテーマとしたシンポジウムの開催や、意思の表出の発出に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	令和5年12月22日～令和8年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	1. 粒子線治療機器開発と臨床応用研究のための国内研究体制 2. 粒子線治療機器の国際的普及促進のための国内体制 3. 粒子線治療や関連技術の高度化のための研究の推進 4. その他に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	令和6年3月25日～令和8年9月30日	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
薬学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会	1. 生物系と工学系の研究者の審議による、毒性学の学術的基盤の強化、新規生産物の非意図的毒性による被害の未然防止に向けた「意思の表出」 2. 毒性学関連分野の研究基盤の強化に向けた社会実装とそれに向けた啓蒙活動（シンポジウム開催、ワークショップ開催等）に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	令和6年3月25日～令和8年9月30日	
薬学委員会基礎系薬学分科会	基礎薬学領域における研究課題、薬学教育研究での人材育成、シンポジウム開催の課題に係る審議に関すること	30名以内の会員又は連携会員	令和6年3月25日～令和8年9月30日	

臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会	高齢者の自立・自律をテーマとしたシンポジウムの開催や、意思の表出の発出に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	令和5年12月22日～令和8年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
薬学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
(新規設置)				
(新規設置)				

	薬学委員会臨床系薬学分科会	創薬・医療分野のDX推進のため、当該分野の課題抽出とDX技術の創薬・医療応用、そのプラットフォーム化に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	令和6年3月25日～令和8年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会自動制御の多分野応用小委員会	機械工学委員会に記載	機械工学委員会に記載	機械工学委員会に記載
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
	臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	臨床医学委員会に記載	臨床医学委員会に記載	臨床医学委員会に記載
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会自動制御の多分野応用小委員会	1. 自動制御分野の長期的な方向性、関連する分野との協調についての議論と方向付け 2. 自動制御連合講演会の運営の審議・決定 3. IFAC (The International Federation of Automatic Control) との連携による国際化の推進に係る審議に関すること	25名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和6年3月25日～令和8年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

電気電子工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会自動制御の多分野応用小委員会	機械工学委員会に記載	機械工学委員会に記載	機械工学委員会に記載
土木工学・建築学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	(略)	(略)	(略)
	土木工学・建築学委員会IRDR分科会IRDR活動推進小委員会	IRDRに関する国際対応及びIRDRと連携した国際的・国内的な防災、減災の振興、普及、社会貢献に関する諸事項に係る審議に関すること	30名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和6年3月25日～令和8年9月30日
材料工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)
	材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会	1. 材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための活動の方法(例: 関連学会等との連携強化など) 2. 材料工学分野におけるロードマップのローリング 3. 上記の議論を深めるためのシンポジウムの開催と意思の表出に係る審議に関すること	25名以内の会員又は連携会員	令和6年1月25日～令和8年9月30日

電気電子工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
土木工学・建築学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
材料工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)
	材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会	1. 材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための活動の方法(例: 関連学会等との連携強化など) 2. 材料工学分野におけるロードマップのローリング 3. 上記の議論を深めるためのシンポジウムの開催と意思の表出に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	令和6年1月25日～令和8年9月30日

附 則 (令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定)

この決定は、決定の日から施行する。

法学委員会分科会の設置について

分科会等名：生殖補助医療と法分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	法学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>現代社会における生殖補助医療の進展にともない、生命やカップル、親子関係をめぐって法の担う役割はますます重要なものになっている。2020年には「生殖補助医療の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律」が制定された。しかし同法の内容自体や、なお残された課題として、出自を知る権利や卵子提供、凍結精子による死後受精、出生前診断、着床前診断、同性カップルに対する生殖補助医療等がある。今後の生殖補助医療の実践や研究、医療制度に関する法や政策のあり方において、法の役割を十全に果たすためには、患者・当事者、子、親、ドナー、医療者、研究者などの多様な関係者の権利を踏まえた多角的な検討が必須である。さらに生殖補助医療実践のグローバル化傾向の中、国際的な法制度や比較法に基づいた検討も不可欠である。</p> <p>本分科会は、上述の課題に対して、民法、家族法、国際私法、憲法、医療制度、医学、国際人権法、社会学、スポーツ史などの諸分野における知見を活用し、諸科学分野とも連携し、第25期開催のシンポジウム「生殖補助医療のこれから—社会の合意に至るために考えること—」の成果を引継ぎ、生殖補助医療の健全な発展とその有効な活用を可能とする医科学技術・学術の法政策のあり方について審議し、「見解」として社会に発信することを目的とする。</p>
4	審議事項	生殖補助医療の実践と学術の健全な発展と有効な活用を可能とする法と政策のあり方に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年3月25日～令和8年9月30日
6	備考	

経済学委員会分科会の設置について

分科会等名：数量的経済・政策分析分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	経済学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>政策議論において、正しい事実認識に基づく議論を根付かせるためには、データを用いた科学的な根拠に裏づけされた実証分析と、それに基づいて俯瞰的で分野横断的な観点から政策提案・評価ができる人材が必要である。そうした人材を育成し、事実・データに基づく経済・政策の議論を世の中に浸透させることは、経済学委員会のひとつの重要な役割と考えられる。</p> <p>そのためのデータの整備を促進すると共に、その分析手法や分析結果を広く学会や社会に伝え、人材育成に資することを本分科会の目的とする。</p>
4	審議事項	<p>1. 研究者等を対象としたチュートリアルセッション等の開催</p> <p>2. 政府統計等の整備に関わる提言に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和5年12月22日～令和8年9月30日
6	備考	※委員の構成の変更(18名から20名に変更)

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：老化分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○臨床医学委員会 健康・生活科学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>高齢化が進む中、社会の変化に応じた高齢者がどのように自律、自立した生活を送ることができるのかを、人文科学、経済学、法学、医学、工学分野の会員、連携会員により学際的に議論することにより、人生100年時代に対する対応策を議論する必要がある。したがって、臨床医学委員会及び健康・生活科学委員会の合同分科会として老化分科会を設置する。</p> <p>本分科会においては、高齢者の自律、自立テーマとして、シンポジウムの開催、意思の表出の発出を行う。また、老化分科会から過去に発出された提言、見解がどのようなアウトカムにつながっているかについてのアンケート調査も実施する。</p>
4	審議事項	高齢者の自立・自律をテーマとしたシンポジウムの開催や、意思の表出の発出に係る審議に関すること
5	設置期間	令和5年12月22日～令和8年9月30日
6	備考	委員の構成の変更(15名から20名に変更)

臨床医学委員会・総合工学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○臨床医学委員会 総合工学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>2人に1人ががんに罹患する時代となり、より体に優しく安全で安心な治療後のQOLの高い治療法が求められるようになってきている。なかでも粒子線治療（陽子線治療及び重粒子線治療）は、QOLの高い治療法として今後の需要は益々高く見込まれ、さらなる粒子線治療技術の開発の国際的な競争の渦中にある。</p> <p>このような粒子線治療施設の建設には莫大な費用がかかるとともに、未だその経営は非常に厳しい状況にあるが、一人当たりのがん治療費が安く根治性を目指せる粒子線治療を推進することは、国民経済への貢献の観点でも国益に合致する。今後、高度化する粒子線治療技術の有効性を実証する臨床研究体制の構築や治療対象疾患に対する保険適用の更なる拡大が急務である。そこで、分科会では、粒子線がん治療研究及びその社会実装の国際的な競争力増強支援に関する審議を俯瞰的かつ分野横断的に行う。</p> <p>また、がんの再発治療では、ホウ素中性子捕捉療法(Boron Neutroncapturetherapy:BNCT) が注目されており、日本が主導的立場で世界に発信している最先端がん治療法として、粒子線治療同様の国際的な競争力増強戦略が必要である。</p> <p>こうした審議には、物理工学分野の知識と放射線診療分野両方の高度専門的知識や国内外の社会動向に関するファクトを有機的に連携させる必要があるため、臨床医学委員会と総合工学委員会の合同分科会として本分科会を設置し、粒子線治療や治療器開発等の専門家や様々な学会関係者に加え、産業界関係者も交えて、学際的な審議を行う。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 粒子線治療機器開発と臨床応用研究のための国内研究体制 2. 粒子線治療機器の国際的普及促進のための国内体制 3. 粒子線治療や関連技術の高度化のための研究の推進

		4. その他 に係る審議に関すること
5	設 置 期 間	令和6年3月25日 ~ 令和8年9月30日
6	備 考	

薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：毒性学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○薬学委員会 食料科学委員会 基礎医学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>文明の発達により、人々の生活の向上を目指し新規の製法により新規の物質や用途が続々と生み出される。しかし、歴史が示す様に、それらは「非意図的な有害性」を発揮し、人体、環境生物、生態系に害を及ぼす可能性を常に内在している。</p> <p>「毒性学」はこの非意図的な有害性による被害を防ぐべく、毒性発現機構の解明、評価法の開発、規制や、Green Chemistry を含む新規開発のための情報発信等、多岐にわたる使命を負っている。</p> <p>当分科会はこの使命に鑑み、薬、農、食品科学、医、獣医、疫学、中毒、環境、公衆衛生等の生物系領域に、化学合成、物性、測定等の工学系領域を加え「学協会では代替できない審議」を幅広く推進する事を目的とする。</p>
4	審議事項	<p>1. 生物系と工学系の研究者の審議による、毒性学の学術的基盤の強化、新規生産物の非意図的毒性による被害の未然防止に向けた「意思の表出」</p> <p>2. 毒性学関連分野の研究基盤の強化に向けた社会実装とそれに向けた啓蒙活動（シンポジウム開催、ワークショップ開催等）</p> <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和6年3月25日～令和8年9月30日
6	備考	

薬学委員会分科会の設置について

分科会等名：基礎系薬学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	薬学委員会
2	委員の構成	30名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>薬学研究の基盤となる化学、物理学、生物学全ての領域における学術の振興と活性化を図り、最新の進歩を薬学研究に活用するための方策を議論することを目的とする。また、薬学領域における諸課題の解決に向けての実践的な方策を議論し、創薬研究、疾病予防及び治療法の開発における解決策の提案と実行を目指す。さらに、薬学研究領域基礎研究力の向上、創薬力の強化等について、薬学的観点からの情報の提供、さらに他の領域の研究者との連携をはかり、新たな提言発信のための議論を行う。加えて、若手人材育成に向けた課題について議論し、将来の薬学研究の方向性を示す。</p> <p>以上の目的を中長期的かつ俯瞰的視野をもって達成するために、多様性を重視した委員構成により、広範な視野からの議論を促進する。化学・物理系薬学の特徴を踏まえつつ、重要な審議テーマについて深い議論を行う体制を整備する。</p>
4	審議事項	基礎薬学領域における研究課題、薬学教育研究での人材育成、シンポジウム開催の課題に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年3月25日～令和8年9月30日
6	備考	

薬学委員会分科会の設置について

分科会等名：臨床系薬学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員会 に○印を付ける。)	薬学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>COVID-19に直面し、我が国の創薬力、さらにはワクチンや患者受け入れ等の医療供給体制など、医療における様々な課題が表面化した。さらに、少子高齢化が進む観点においても、質の高い医療を提供しつづけるためには、現状の医療体制を見直すことが喫緊の課題となっている。そこで薬学委員会では臨床系薬学分科会を設置し、DXをキーテクノロジーとして、当該課題の解決に向けた具体的な方策を議論、提言することを目的とする。</p> <p>質の高い医療を提供するためには、薬学分野に限定した議論では解決できない課題が多く、医学・看護学・経済学・情報学・工学などの専門家や、産業界、一般市民を巻き込んだ分野横断的・俯瞰的な議論が不可欠であることから、他分野の委員の参画のもと、創薬・医療におけるDXについて広く議論・提言を行う。</p>
4	審議事項	創薬・医療分野のDX推進のため、当該分野の課題抽出とDX技術の創薬・医療応用、そのプラットフォーム化に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年3月25日～令和8年9月30日
6	備考	

機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC 分科会小委員会の設置について

分科会等名：自動制御の多分野応用小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○機械工学委員会 総合工学委員会 電気電子工学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>自動制御は、数多くの分野に応用可能な水平型基幹科学技術であり、学術分野間の連携が特に重要な分野である。</p> <p>本小委員会では、自動制御の応用分野を開拓し、自動制御のコンセプトや技術を新分野に適用することにより、その分野のさらなる発展を模索する。さらに、その新分野からのフィードバックによる自動制御技術の深化を試みる。</p> <p>日本学術会議第19期までは、自動制御研究連絡会議が主宰する自動制御連合講演会が過去50年に渡って開催されていた。この自動制御連合講演会は、自動制御を横軸として関連する学協会が数多く集まった横断的会議である。本小委員会は、この自動制御連合講演会を実践の場とし、新しい学協会を横軸で繋ぎ、国際化も含め新しい方向を模索する。</p>
4	審議事項	<p>1. 自動制御分野の長期的な方向性、関連する分野との協調についての議論と方向付け</p> <p>2. 自動制御連合講演会の運営の審議・決定</p> <p>3. IFAC (The International Federation of Automatic Control) との連携による国際化の推進に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和6年3月25日～令和8年9月30日
6	備考	

土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会小委員会の設置について

分科会等名：IRDR 活動推進小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	土木工学・建築学委員会
2	委員の構成	30名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>IRDR の日本国内委員会の役割を担う IRDR 分科会では、国内外において現場の関係当事者や国際学術団体、国連・国際機関、国際援助機関等との連携を深め、第 25 期中(2022 年)に IRDR で公認された我が国提案の国際中核拠点 ICoE-Coherence の活動を本格化し、IRDR フェーズ II (2022-2031)の活動を牽引する。</p> <p>ただし、防災・減災は科学・技術、学術だけでは達成できず、マルチステークホルダーの取組が必須である。</p> <p>そこで、分科会内での議論とそれを具体的な提案にまとめる作業に加え、国際的議論と調整においてリーダーシップを発揮できる下記の経験を有する者の参加を得て小委員会を設置し、IRDR 活動を推進する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 防災・減災分野において、国際的な研究開発または政策展開の経験 2 分野間連携、産・官・学の連携を図り、防災・減災の社会実装を進める経験 3 学術、行政の双方の立場から、防災・減災の研究開発と政策の経験
4	審議事項	IRDR に関する国際対応及び IRDR と連携した国際的・国内的な防災、減災の振興、普及、社会貢献に関する諸事項に係る審議に関すること
5	設置期間	令和 6 年 3 月 25 日 ～ 令和 8 年 9 月 30 日
6	備考	

材料工学委員会分科会の設置について

分科会等名：材料工学中長期研究戦略分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	材料工学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>日本学術会議が2023年に発出した提言「未来の学術振興構想」を構成する「学術の中長期研究戦略」のうち、材料科学・工学が密接に関係する課題を抽出し、提案機関、関連学協会との密接な連携のもとで材料工学に関する「中長期研究戦略ロードマップ」の策定を目指す。</p> <p>「社会のための材料工学」を発展させていくために、材料科学・工学に直接関係する課題に加えて、データサイエンス、量子技術、元素戦略、放射光などの関連分野、さらに材料科学教育までを対象として議論を進め、その経過をシンポジウム等で社会に公開し、そこからのフィードバックを反映して意思の表出を行う。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための活動の方法（例：関連学会等との連携強化など） 2. 材料工学分野におけるロードマップのローリング 3. 上記の議論を深めるためのシンポジウムの開催と意思の表出 <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和6年1月25日～令和8年9月30日
6	備考	※委員の構成の変更(20名から25名に変更)

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（新規7件）

（社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会）

氏名	所属・職名	備考
白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員
姉齒 暁	駒澤大学経済学部教授	連携会員
上野 千鶴子	東京大学名誉教授	連携会員
大沢 真理	東京大学名誉教授	連携会員
落合 恵美子	京都大学名誉教授／京都産業大学現代社会学部客員教授	連携会員
海妻 径子	岩手大学人文社会科学部教授	連携会員
河野 銀子	九州大学男女共同参画推進室教授	連携会員
三時 眞貴子	広島大学大学院人間社会科学研究科准教授	連携会員
須田 木綿子	東洋大学社会学部社会学科教授	連携会員
住居 広士	県立広島大学大学院特任教授	連携会員
柘植 あづみ	明治学院大学副学長／社会学部教授	連携会員
皆川 満寿美	中央学院大学現代教養学部准教授	連携会員
村尾 祐美子	東洋大学社会学部社会学科准教授	連携会員

【設置：第361回幹事会（令和6年1月25日）、決定後の委員数：13名】

（法学委員会生殖補助医療と法分科会）

氏名	所属・職名	備考
山田 八千子	中央大学法科大学院教授／弁護士	第一部会員
小浜 正子	日本大学文理学部教授	連携会員
建石 真公子	法政大学法学部教授	連携会員
柘植 あづみ	明治学院大学副学長／社会学部教授	連携会員
西 希代子	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	連携会員
二宮 周平	立命館大学名誉教授	連携会員

早川 眞一郎	専修大学法科大学院教授	連携会員
水野 紀子	白鷗大学法学部教授	連携会員
三宅 秀彦	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	連携会員
吉沢 豊予子	関西国際大学保健医療学部教授	連携会員
米村 滋人	東京大学大学院法学政治学研究科教授	連携会員
來田 享子	中京大学スポーツ科学部教授	連携会員

【設置予定：第 364 回幹事会（令和 6 年 3 月 25 日）、決定後の委員数：12 名】

(政治学委員会政治の歴史と主権者教育分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
早川 誠	立正大学法学部法学科教授	第一部会員
小玉 重夫	東京大学大学院教育学研究科教授	連携会員
田村 哲樹	名古屋大学大学院法学研究科教授	連携会員
中北 浩爾	中央大学法学部教授	連携会員
中澤 俊輔	秋田大学教育文化学部准教授	連携会員
森山 花鈴	南山大学社会倫理研究所第一種研究員／法学部法律学科准教授	連携会員
山岡 龍一	放送大学教養学部教授	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、決定後の委員数：7 名】

(農学委員会地域総合農学分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
後藤 英司	千葉大学大学院園芸学研究院教授	第二部会員
大黒 俊哉	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員
大橋 敬子	玉川大学農学部先端食農学科教授	連携会員
小田切 徳美	明治大学農学部教授	連携会員
加藤 千尋	弘前大学農学生命科学部地域環境工学科准教授	連携会員

武山 絵美	愛媛大学大学院農学研究科教授	連携会員
仁科 弘重	愛媛大学学長	連携会員
武藤 由子	岩手大学農学部食料生産環境学科准教授	連携会員
弓削 こずえ	佐賀大学農学部教授	連携会員

【設置：第361回幹事会（令和6年1月25日）、決定後の委員数：9名】

（臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
神田 玲子	量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門放射線医学研究所所長	第二部会員
櫻井 博儀	国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器科学研究センターセンター長	第三部会員
青木 茂樹	順天堂大学健康データサイエンス学部長／大学院医学研究科放射線診断学教授	連携会員
井上 優介	北里大学医学部放射線科学画像診断学教授	連携会員
大倉 典子	中央大学大学院理工学研究科客員教授・研究開発機構機構教授／芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所客員教授	連携会員
岡沢 秀彦	福井大学高エネルギー医学研究センター教授	連携会員
神谷 研二	公益財団法人放射線影響研究所理事長	連携会員
佐治 英郎	京都大学特任教授／京都大学名誉教授	連携会員
多湖 正夫	帝京大学医学部附属溝口病院放射線科教授	連携会員
中野 隆史	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構QST アソシエイト／群馬大学特別教授	連携会員
西尾 禎治	大阪大学大学院医学系研究科教授	連携会員

【設置予定：第364回幹事会（令和6年3月25日）、決定後の委員数：11名】

（薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会）

氏名	所属・職名	備考
山崎 真巳	千葉大学大学院薬学研究院教授	第二部会員
石塚 真由美	北海道大学大学院獣医学研究院教授	連携会員

上田 佳代	北海道大学大学院医学研究院教授	連携会員
小椋 康光	千葉大学大学院薬学研究院教授	連携会員
菅野 純	国立医薬品食品衛生研究所客員研究員／名誉職員	連携会員
関野 祐子	東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授	連携会員
平井 みどり	神戸大学名誉教授／京都大学医学研究科特任教授	連携会員
渡辺 知保	長崎大学教授	連携会員

【設置予定：第 364 回幹事会（令和 6 年 3 月 25 日）、決定後の委員数：9 名】

（薬学委員会基礎系薬学分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
眞鍋 史乃	星薬科大学薬学部教授／東北大学大学院薬学研究科教授	第二部会員
山崎 真巳	千葉大学大学院薬学研究院教授	第二部会員
赤羽 悟美	東邦大学医学部教授	連携会員
新井 洋由	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事／審査センター長	連携会員
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室教授	連携会員
井上 純一郎	東京大学特命教授	連携会員
井上 豪	大阪大学薬学研究科創成薬学専攻教授	連携会員
内山 真伸	東京大学大学院薬学系研究科教授	連携会員
遠藤 玉夫	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所シニアフェロー	連携会員
小川 美香子	北海道大学大学院薬学研究院教授	連携会員
加藤 晃一	自然科学研究機構生命創成探究センター教授	連携会員
神谷 真子	東京工業大学生命理工学院教授	連携会員
北川 裕之	神戸薬科大学学長／教授	連携会員
佐治 英郎	京都大学特任教授／京都大学名誉教授	連携会員

武田 真莉子	神戸学院大学薬学部教授	連携会員
津本 浩平	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員
徳山 英利	東北大学大学院薬学研究科教授	連携会員
中島 美紀	金沢大学ナノ生命科学研究所(薬学系兼任)教授	連携会員
永次 史	東北大学多元物質科学研究所教授	連携会員
庭山 聡美	室蘭工業大学大学院工学研究科しくみ解明系領域教授	連携会員
樋口 ゆり子	京都大学大学院薬学研究科教授	連携会員
深見 希代子	東京薬科大学名誉教授／生命医科学科客員教授	連携会員
藤田 直也	公益財団法人がん研究会がん化学療法センター所長	連携会員
三澤 日出巳	慶應義塾大学薬学部教授	連携会員
南 雅文	北海道大学大学院薬学研究院教授	連携会員

【設置予定：第364回幹事会（令和6年3月25日）、決定後の委員数：25名】

○分科会委員の決定（追加20件）

（哲学委員会芸術と文化環境分科会）

氏名	所属・職名	備考
近藤 存志	東洋大学福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科教授	連携会員
福永 香	国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室長	連携会員

【設置：第361回幹事会（令和6年1月25日）、追加決定後の委員数：9名】

（心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会）

氏名	所属・職名	備考
内富 庸介	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院支持療法開発部門部門長	連携会員

【設置：第360回幹事会（令和5年12月22日）、決定後の委員数：19名】

(社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会)

氏名	所属・職名	備考
権藤 恭之	大阪大学大学院人間科学研究科教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：21 名】

(史学委員会文化財の保存と活用に関する分科会)

氏名	所属・職名	備考
貴志 俊彦	京都大学東南アジア地域研究研究所教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：22 名】

(地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会)

氏名	所属・職名	備考
香坂 玲	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：29 名】

(経済学委員会ワークライフバランス研究分科会)

氏名	所属・職名	備考
菅野 早紀	大東文化大学経済学部社会経済学科准教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：13 名】

(統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会)

氏名	所属・職名	備考
宮路 淳子	奈良女子大学研究院人文科学系教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：16 名】

(統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会)

氏名	所属・職名	備考
加藤 晃一	自然科学研究機構生命創成探究センター教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：20 名】

(農学委員会林学分科会)

氏名	所属・職名	備考
大浦 由美	和歌山大学観光学部教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：18 名】

(基礎医学委員会機能医科学分科会)

氏名	所属・職名	備考
入来 篤史	国立研究開発法人理化学研究所未来戦略室上級研究員	連携会員
内匠 透	神戸大学大学院医学研究科教授	連携会員
河岡 慎平	東北大学加齢医学研究所生体情報解析分野准教授／京都大学医生物学研究所臓器連関研究チーム特定准教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：13 名】

(臨床医学委員会・健康・生活科学分科会合同老化分科会)

氏名	所属・職名	備考
柏原 直樹	川崎医科大学特任教授	連携会員
佐藤 加代子	東京家政大学栄養学部栄養学科教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：18 名】

(健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会)

氏名	所属・職名	備考
内富 庸介	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院支持療法開発部門部門長	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：17 名】

(歯学委員会基礎系歯学分科会)

氏名	所属・職名	備考
古江 美保	株式会社セルミック代表取締役	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：16 名】

(環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会)

氏名	所属・職名	備考
小椋 康光	千葉大学大学院薬学研究院教授	連携会員
近藤 智恵子	長崎大学大学院工学研究科教授	連携会員
茶山 一彰	広島大学大学院医系科学研究科医療イノベーション共同研究講座共同研究講座教授	連携会員
藤井 健吉	花王株式会社研究開発部門研究主幹／研究戦略・企画部部长	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：17 名】

(物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会)

氏名	所属・職名	備考
陰山 聡	神戸大学大学院システム情報学研究科教授	連携会員
山口 浩司	日本電信電話株式会社物性科学基礎研究所フェロー	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：41 名】

(情報学委員会サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会)

氏名	所属・職名	備考
中野 有紀子	成蹊大学理工学部情報科学科教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：28 名】

(総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会)

氏名	所属・職名	備考
武田 秀太郎	九州大学都市研究センター准教授	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：14 名】

(機械工学委員会ロボット学分科会)

氏名	所属・職名	備考
竹内 昌治	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	連携会員
古江 美保	株式会社セルミック代表取締役	連携会員
宮崎 久美子	立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授／	連携会員

	東京工業大学名誉教授	
--	------------	--

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：16 名】

(電気電子工学委員会制御・パワー工学分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
長谷川 浩巳	一般財団法人電力中央研究所グリッドイノベーション研究本部 ENIC 研究部門	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：16 名】

(土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
平田 京子	日本女子大学家政学部住居学科教授	連携会員

【設置：第 358 回幹事会（令和 5 年 11 月 27 日）、追加決定後の委員数：18 名】

○小委員会委員の決定（新規 1 件）

(機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC 分科会自動制御の多分野応用小委員会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
田中 真美	東北大学大学院医工学研究科教授	第三部会員
井村 順一	東京工業大学理事・副学長／工学院システム制御系教授	連携会員
岩崎 誠	名古屋工業大学大学院工学研究科電気・機械工学専攻教授	連携会員
榎木 哲夫	京都大学理事／副学長	連携会員
坂東 麻衣	九州大学大学院工学研究院航空宇宙工学部門教授	連携会員
藤崎 泰正	大阪大学大学院情報科学研究科教授	連携会員
水野 毅	埼玉大学名誉教授／特任教授	連携会員

【設置予定：第 364 回幹事会（令和 6 年 3 月 25 日）、決定後の委員数：17 名】

○分科会委員の決定（取り消し1件）

第360回幹事会（令和5年12月22日開催）で決定した下記の者については、決定を取り消すこととする。

（地域研究委員会文化人類学の学知を活用した人材育成及び社会連携分科会）

氏名	所属・職名	備考
櫻田 涼子	甲南大学経営学部教授	連携会員

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概要
1	一般社団法人 日本超音波骨軟組織学会 (https://www.japan-ubm.jp/)	本団体は、運動器を対象に臨床の現場やスポーツの現場で超音波診断装置による抽出方法や画像読映技術など、適切かつ有効な使用方法を探求することを目的とするものである。
2	一般社団法人 日本循環器看護学会 (https://www.jacn.jp/)	本団体は、循環器病に関する健康問題について市民と医療者が協働し、広く知識・技術の交流に努め、さらに循環器病に関する看護実践の向上と看護学の発展を図り、もって市民の健康と福祉に貢献することを目的とするものである。
3	日本赤十字看護学会 (https://plaza.umin.ac.jp/jrcsns/)	本団体は、全国赤十字の看護学教育の中心的役割を担うものとして、赤十字の看護の発展を目的とするものである。
4	一般社団法人 日本ヒューマンヘルスケア学会 (http://www.asas.or.jp/jshhc/)	本団体は、保健・医療・看護・福祉に関する学術的研究の発展と教育の普及を図り、健康課題への取り組みを通して社会貢献と文化の発展に寄与することを目的とするものである。
5	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 (https://mhb.jp/)	本団体は、バイリンガル教育を必要とする幼児・児童・生徒、およびその他の学習者の言語教育を対象分野として、各種活動を行うことを通して、母語・継承語・バイリンガル教育の発展に寄与することを目的とするものである。
6	一般社団法人 日本呼吸理学療法学会 (https://www.jspt.or.jp/jsrpt/)	本団体は、呼吸理学療法にかかわる臨床と研究、教育活動を推進し、呼吸理学療法を普及・発展させることで、国民の健康の維持・向上に寄与することを目的とするものである。
7	国際取引法学会 (http://www.asas.or.jp/jaibl/)	本団体は、国際取引法の研究を遂行し、あわせてその背景にある様々な文化、社会、歴史的な理解を深めることを

		通じて、グローバルな社会および経済の発展に寄与することを目的とするものである。
8	日本聴覚言語障害学会 (https://www.jshld.org/)	本団体は、聴覚言語障害に関する科学的研究を通して、教育臨床及び学校教育の進歩向上を図ることを目的とするものである。
9	北海道民族学会 (https://hes.official.jp/index.php/)	本団体は、北海道における民族学の研究を推進し、その発展普及をはかることを目的とするものである。
10	洋学史学会 (https://yogakushi.jpn.org/)	本団体は、洋学史の研究と普及・発展をはかることを目的とするものである。

令和6年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和6年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	第 14 回グローバルヤングアカデミー(GYA)総会	令和6年 5月7日 ～ 5月 10 日	ワシントン (米国)	小野 悠 連携会員 (豊橋技術科学大学学長補佐/ 大学院工学研究科准教授)	若手アカデミー	<p>・派遣者の変更及び決定</p> <p>※安田仁奈連携会員(第363 回幹事会(令和6年2月29 日)承認)の都合により変更。</p> <p>※現地出席予定</p> <p>※実施計画については第363 回幹事会(令和6年2月29 日)にて承認済み。</p>
2	世界科学フォーラム(WSF)2024 第3回運営委員会	令和6年 5月 16 日 ～ 5月 17 日 もしくは 5月 23 日 ～ 5月 24 日 ↓ 令和6年 5月 16 日 ～ 5月 17 日	オンライン	日比谷 潤子 第一部会員 (学校法人聖心女子学院常務理事、国際基督教大学名誉教授)	国際委員会 ISC 等 分科会	<p>・会期の変更</p> <p>※オンライン出席予定</p> <p>※実施計画及び派遣者については第 363 回幹事会(令和6年2月29 日)にて承認済み。</p>
3	海洋研究科学委員会(SCOR)年次総会	令和6年 10月 15 日 ～ 10月 18 日	青島 (中国)	張 勁 連携会員 (富山大学学長補佐/学術研究部理学系教授)	地球惑星科学委員会 SCOR 分科会	<p>・派遣者の決定</p> <p>※現地出席予定</p> <p>※実施計画については第363 回幹事会(令和6年2月29 日)にて承認済み。</p>
4	第 49 回大韓民国学術院国際シンポジウム	令和6年 10月 18 日	ソウル (韓国)	黒橋 禎夫 第三部会員 (大学共同利用機関法人国立情報学研究所所長/京都大学大学院情報学研究科特定教授)	情報学委員会	<p>・派遣者の決定</p> <p>※現地出席予定</p> <p>※実施計画については第363 回幹事会(令和6年2月29 日)にて承認済み。</p>

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
5	国際土壌科学連合 (IUSS) 中間会議	令和6年 10月21日 ～ 10月23日	南京 (中国)	犬伏 和之 連携会員 (東京農業大学応用生物科学部 農芸化学科教授)	農学委員会・食料 科学委員会合同 IUSS 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定 ※実施計画については第 363 回幹事会(令和6年2 月29日)にて承認済み。
6	アジア科学アカデミー・ 科学協会連合(AASSA) 総会	令和6年 10月頃 ↓ 令和6年 10月29日 ～ 10月30日	未定 ↓ マニラ (フィリピン)	佐竹 健治 第三部会員 (東京大学地震研究所地震火山 情報センター教授)	国際委員会アジ ア学術会議等分 科会	・派遣者の決定 ・会期の決定 ・開催地の決定 ※現地出席予定 ※実施計画については第 363 回幹事会(令和6年2 月29日)にて承認済み。
7	世界科学フォーラム (WSF) 2024	令和6年 11月20日 ～ 11月23日	ブダペスト (ハンガリー)	日比谷 潤子 第一部会員 (学校法人聖心女子学院常務理 事、国際基督教大学名誉教授)	国際委員会 ISC 等分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定 ※実施計画については第 363 回幹事会(令和6年2 月29日)にて承認済み。
8	国際科学史技術史科学 基礎論学会連合/科学 史技術史部門(IUHPST /DHST)評議員会	令和6年 12月9日	オンライン	橋本 毅彦 連携会員 (東京大学名誉教授)	史学委員会 IUHPST 分科会	・派遣者の決定 ※オンライン出席予定 ※実施計画については第 363 回幹事会(令和6年2 月29日)にて承認済み。
9	ISC 総会 2025	令和7年 1月22日 ～ 1月26日 ↓ 令和7年 1月26日 ～ 1月30日	マスカット (オマーン)	光石 衛 第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・学 位授与機構理事/東京大学名誉 教授)	国際委員会 ISC 等分科会	・派遣者の決定 ・会期の変更 ※現地出席予定 ※実施計画については第 363 回幹事会(令和6年2 月29日)にて承認済み。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
10	北極科学サミット週間 2025	令和7年 3月21日 ～ 3月28日	ボルダー (米国)	榎本 浩之 (※1) — (情報・システム研究機構国立極 地研究所副所長、特任教授)	地球惑星科学委 員会国際連携分 科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定 ※実施計画については第 363回幹事会(令和6年2 月29日)にて承認済み。

(注)

(※1) 当該派遣候補者は、連携会員(特任)に承認されることを条件とする。

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和6年度第2四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和6年度第2四半期】 1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案6	「未来の学術振興構想－ 実現に向けて－」 (企画：科学者委員会学術 研究振興分科会)	令和6年9月 もしくは10月 の午後	日本学術会 議講堂（ハ イブリッド 開催）	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和6年度第2四半期】 0件

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

- 1. 学術フォーラム（平日0件/土日0件/開催曜日未定1件） 全1件

(内訳) ※全件について、経費又は人的負担要

		第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
学術フォー ラム	(土日)				
	(平日)				
	(開催曜日 未定)		1		
合計			1		

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 (学術フォーラム含む) 全0件 残り：32件
(内訳)

	関連部等	第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
シンポジウム	第一部				
	第二部				
	第三部				
	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム (土日)					
合計					

日本学術会議主催学術フォーラム
「未来の学術振興構想—実現に向けて—」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和6年9月もしくは10月の午後（調整中）
3. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
4. 委員会等の開催：開催予定あり

5. 開催趣旨

第25期に発出した提言「未来の学術振興構想（2023年版）」について、提言の内容を広く社会において共有するとともに、その実現に向けてどのような活動が行われるべきであるか、また、本構想をより豊かにしていくためにどのようなことが考えられるかなどについて、日本学術会議各部の専門家及び外部有識者による議論を行う。

6. 次 第：

開会挨拶 光石 衛（日本学術会議第三部会員、日本学術会議会長、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授）

科学者委員会学術研究振興分科会からの提言趣旨説明

【提言策定経緯】

光石 衛（再掲）

山崎 典子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）

【人文・社会科学関連分野】

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）

【生命科学関連分野】

石塚 真由美（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）

【理学・工学関連分野】

田近 英一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

【分野融合】

岸本 喜久雄（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

日本の学術の現在と未来の学術振興構想

山口 周（東京大学名誉教授、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部特任教授）

渡辺 美代子（日本学術会議連携会員、日本大学常務理事・特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事）

学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた課題

中村 道治（国立研究開発法人科学技術振興機構名誉理事長、元株式会社日立製作所執行役副社長）

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）等（検討中）

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局（調整中）

まとめ・閉会挨拶

森田 一樹（日本学術会議第三部会員、科学者委員会学術研究振興分科会委員長、東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻教授）

（下線は、日本学術会議関係者）

公開シンポジウム
「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの!？」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本繁殖生物学会
2. 共 催：日本畜産学アカデミー
3. 後 援：公益社団法人日本畜産学会
4. 日 時：令和6年5月11日（土）13：00 ～ 15：20
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

家畜・家禽の増殖のために研究・開発されてきた人工授精、精子の凍結保存、体外受精・胚移植、顕微授精（卵細胞質内精子注入法）、初期胚の凍結・融解・移植などの諸技術は、SDGs（持続可能な開発目標）の目標2「飢餓をゼロに」のターゲット5「家畜化された動物資源の多様性の維持」や、目標15「陸の豊かさも守ろう」のターゲット5「生物多様性の損失を阻止し、絶滅危惧種を保護し、また絶滅を防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる」の具体策として、様々な哺乳類や鳥類の種の保存や絶滅防止などに活用されています。

畜産学分科会では、これまで一般公開シンポジウムやセミナーを開催している日本繁殖生物学会と共催し、主に産業動物を対象とした繁殖学研究や技術が、SDGsにどのように貢献しているかについて、具体的に紹介してきました。本シンポジウムでは、産業動物の繁殖学研究や技術から派生し、動物園の現場、宇宙科学、医療領域などにおいて、SDGs目標との関わりから社会的貢献をし得る繁殖学基礎研究や新技術の開発を紹介し、学術の重要性や社会的意義などについて、中高生や一般市民の皆様にも、分かり易くご理解を頂ける機会にしたいと思っております。

9. 次 第：

13：00 開催の挨拶：

大澤 健司（宮崎大学農学部獣医学科産業動物臨床繁殖学研究室教授）

13：10 座長：白砂 孔明（東京農業大学農学部動物科学科教授）

「動物の繁殖学研究と動物園への広がり」

講演者：山本 ゆき（東京農工大学大学院農学研究院動物生命科学部門准教授）

13：45 座長：尾畑 やよい（東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科教授）

「動物の繁殖学研究と宇宙への広がり」

講演者：若山 照彦（山梨大学生命環境学部生命工学科教授）

14：20 座長：松田 二子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

「動物の繁殖学研究と医療への広がり」

講演者：長嶋 比呂志（明治大学農学部生命科学科専任教授）

14：55 質疑応答・総括：

木村 直子（日本学術会議第二部会員、山形大学学術研究院教授（農学部主担当）

15：20 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者は、主催分科会委員）

日本学術会議中部地区会議学術講演会
「未病から Well-being を考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
※中部 8 県の大学が持ち回り開催（年 2 回）
2. 共 催：富山大学
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和 6 年 6 月 14 日（金）13：00 ～ 16：30（予定）
※同日の午前中に中部地区会議運営協議会、科学者懇談会各県幹事との打合せ会を開催
5. 場 所：富山大学五福キャンパス（富山県富山市五福 3190 番地）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無

8. 開催趣旨：

近年、健康への意識が高まる中で「未病」という言葉が注目を集めている。「未病」とは「健康と病気の間にあるゆらぎ状態」を指し、「未病」に対して治療を行うことは健康寿命の延伸だけでなく、医療が高度化し医療費の高額化が進む現代において健康福祉政策に対する根本的な解決策となることも期待されている。しかし「未病」の状態は、いまだ科学的に十分には解明されてはおらず、今日様々な研究が進められているところである。

このような「未病」という課題に対し、富山大学ではこれまでの東西医薬学の融合研究を進展させ未病研究センターを設置し、超早期精密医療への挑戦を進めている。様々な観点からの未病へのアプローチを紹介することで、人々に未病を身近なものとして感じてもらい、理解を深めてもらうことで、Well-being の実現に向けた社会づくりへ貢献できる。

今回の講演会では、この挑戦的研究の進展を紹介し学術的理解を深め今後の展望について議論したい。

9. 次 第 :

- (1) 13:00~13:10 開会挨拶
富山大学長 齋藤 滋
- (2) 13:10~13:20 開会挨拶
日本学術会議副会長 三枝 信子
(日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長)
- (3) 13:20~13:30 主催者挨拶
日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章
(日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)
- (4) 13:30~13:40 科学者との懇談会活動報告
中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久
(同朋大学学長)
- (5) 13:40~16:25 学術講演会の演題及び演者
【未病から Well-being を考える】
- ・小泉 桂一 (富山大学学術研究部薬学・和漢系教授)
「未病の科学的な定義化から始める未病学開拓の初めの一步」
 - ・大嶋 佑介 (富山大学学術研究部工学系准教授)
「ラマン分光法による前がん状態 (未病) の検出」
 - ・東田 千尋 (富山大学学術研究部薬学・和漢系教授)
「脳機能と運動器の連関 : Well-being の分子研究」
 - ・新田 淳美 (富山大学学術研究部薬学・和漢系教授)
「Well-being を目指して レジリエンスな心のために」
 - ・藤本 孝子 (富山大学学術研究部教育学系准教授)
「未病と現代の子どもの生活習慣」
 - ・質疑・まとめ
- (6) 16:25~16:30 閉会挨拶 (司会)
日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 張 勁
(日本学術会議連携会員、富山大学学長補佐、学術研究部理学系教授)

10. 関係部の承認の有無 : 科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

公開シンポジウム
「裁判記録の現状と課題—保存と公開体制の確立を—
(第 29 回史料保存利用問題シンポジウム)」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会、
日本歴史学協会
2. 共 催：なし
3. 後 援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会
4. 日 時：令和 6 年（2024 年）6 月 22 日（土）13：30 ～ 17：30
5. 場 所：一橋大学（東京都国立市中 2－1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

平成 9 年（1997 年）に神戸で起きた連続児童殺傷事件（いわゆる「酒鬼薔薇聖斗」事件）の裁判記録の全てが廃棄されたことが、近時明らかになった。このほかにも、重大事件の裁判記録が廃棄されていたという事態が発覚している。この背景には、裁判所関係者にアーカイブズ制度への理解が乏しく、資料の保存・管理に対する関心が低い状況がある。事の重大性について、最高裁判所が自らの責任を認め、再発防止策をまとめたが、その実効性が問われる。

さて、国立公文書館法（平成 11 年（1999 年）制定）では、行政に限らず司法・立法も含めた国の機関全ての公文書を受け入れることを定めている。また、公文書管理法（平成 21 年（2009 年）制定）では、国会・裁判所の文書管理について、法の趣旨、国会・裁判所の地位・権能等を踏まえ検討することを定めている。この間、各地にアーカイブズ機関が設立され、アーキビスト制度も整備されてきたが、司法資料への取組は遅れていた。

こうした状況に鑑み、今回のシンポジウムでは、刑事裁判記録の廃棄問題の実情を理解すること、さらには世界の裁判記録の保存・利用の現状に目を向け、それに学ぶことを意図したい。その際、かつて日本歴史学協会も取り組んだ民事訴訟判決原本の保存運動の成果と課題を振り返り、現在、主に国立公文書館つくば分館に保存されている民事訴訟判決

原本について、その受け入れの経緯を含め、管理・利用の実情を知ることも意義あることと考える。

このような趣旨のもとに、以下の各報告をお願いした。

第1報告 霍見 真一郎氏（神戸新聞記者）「紙と命—少年事件記録の廃棄問題—」

第2報告 湯上 良氏（昭和女子大学大学院准教授）「司法資料の保存と利活用に関する各国の状況」

第3報告 国立公文書館職員「国立公文書館における民事判決原本の受け入れについて」（仮）

まとめと課題 高埜 利彦氏（元日本学術会議会員、学習院大学名誉教授）

これらの報告と、パネルディスカッションでの議論を通して、何が問題なのか、どこが問題なのか、公文書管理の立場、史料保存の立場から裁判所における裁判記録の保存・管理の在り方を検証し、公開体制を構築するための問題提起としたい。

9. 次 第：

総合司会：大橋 幸泰（日本学術会議第一部会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

13：30 開会挨拶

若尾 政希（日本学術会議連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授／日本歴史学協会委員長）

13：35 趣旨説明

佐藤 孝之（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

13：40 第1報告「紙と命—少年事件記録の廃棄問題—」

霍見 真一郎（神戸新聞記者）

14：20 第2報告「司法資料の保存と利活用に関する各国の状況」

湯上 良（昭和女子大学大学院准教授）

15：00 第3報告「国立公文書館における民事判決原本の受け入れについて」（仮）

国立公文書館職員（登壇者調整中）

15：40～15：50 休憩

15：50 まとめと課題

高埜 利彦（元日本学術会議会員、学習院大学名誉教授）

16：10 パネルディスカッション

司会：大友 一雄（日本歴史学協会国立公文書館特別委員会委員長）

佐藤 孝之（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

パネリスト：霍見 真一郎（神戸新聞記者）

湯上 良（昭和女子大学大学院准教授）

国立公文書館職員（登壇者調整中）

高埜 利彦（元日本学術会議会員、学習院大学名誉教授）

17：15 コメント

香室 結美（日本学術会議連携会員／熊本大学文書館特任助教）

17：25 閉会挨拶

松本 直子（日本学術会議第一部会員／岡山大学文明動態学研究所教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会シンポジウムーアジアにおけるプライマリ・ケア領域ナース・プラクティショナー最前線ー

主催：日本プライマリ・ケア連合学会

期間：令和6年6月7日（金）～6月9日（日）

場所：アクトシティ浜松

参加予定者数：約6,000名

申請者：第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

大会長 井上 真智子

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

2. 第13回 JACI/GSC シンポジウム

主催：公益社団法人新化学技術推進協会

期間：令和6年6月17日（月）～6月18日（火）

場所：一橋講堂及びライブ配信

参加予定者数：約700名

申請者：公益社団法人新化学技術推進協会

会長 淡輪 敏

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第364回幹事会	令和6年3月25日(月)	14:30から
第365回幹事会	第191回総会期間中に開催	
第366回幹事会	令和6年5月31日(金)	14:30から
第367回幹事会	令和6年6月28日(金)	14:30から
第368回幹事会	令和6年7月29日(月)	14:30から
第369回幹事会	令和6年8月30日(金)	14:30から
第370回幹事会	令和6年9月30日(月)	14:30から

●総会

第191回総会	令和6年4月22日(月)～24日(水)
---------	---------------------